

# 2017年度特定非営利活動法人あだたら青い空事業報告書

## 1. 理事会・事務局

特定非営利活動法人あだたら青い空は、多くの皆様のご支援により2017年6月12日に正式に認証されました。あだたら青い空は、2011年の東日本大震災以降、青い空が「福島復興と子どもの自立支援のため」に取り組んできたものを引き継ぎ、発展させるために結成しました。

2017年度はNPO法人結成1年目でしたので、何もかも分からないことだらけでしたが、会計処理やNPO法人の運営の仕方など、NPO法人を支援するNPO法人からの支援をいただき、一步一步前進しています。2017年度は、NPO法人として財政的には赤字になっていますが、大事なことはNPO法人を支えるスタッフが多くいるかということです。これからも引き続きNPO法人あだたら青い空をご支援いただきますようお願いいたします。

## 2. フリースクール青い空と不登校の保護者の交流会

フリースクール青い空は、不登校の子どもたちの自立支援や学習支援のために2013年4月から岳温泉に開設しました。不登校は「ダメなこと」ではなくて、自分らしさを取り戻すために必要で大事な反応です。2016年12月に国会で「教育機会確保法」が成立して以来、文科省も「不登校は問題行動ではない」という見方になり、学校以外のフリースクールなども積極的に活用することを認めるようになりました。フリースクール青い空は2013年の開設以来、子どもたちの安心できる「居場所」としての役割を果たしてきました。しかし、福島という地域性や保護者の経済的な条件、また不登校に対する理解不足などもあり、フリースクールを十分に活用する状況になっていません。福島県内の不登校の子どもたちの数は小中学生が約1800名、高校生も含めると2300名を超えるという統計があります。フリースクール青い空の常時の週平均利用者は、2013年は3~4名、2014年は3~4名、2015年は6~7名、2016年は3~6名、2017年は1~3名などとなっており、助成金などの支給がない中で経営的には成り立たない状況です。フリースクールは、本来経営が成り立つものではないとは考えられますが、フリースクールの内容の充実や効果的な宣伝、助成金の確保などによってフリースクールを維持する必要があります。

毎月1回実施している不登校の保護者の交流会（岳カフェ）には、福島市や郡山市や二本松市などから3~12名の保護者が参加しており、不登校に対する不安と交流することへのニーズが高いことを示しています。今後とも、不登校の保護者の交流会をはじめ、日常的な教育相談活動、不登校についての学習会などを行っていく必要があります。



## 3. こども食堂ハラクッチー

こども食堂ハラクッチーは、2017年4月から毎月2回、「生活困窮家庭の子ども支援」や「地域ぐるみの子育て支援」「社会的な孤立防止」などを目的に開始しました。毎回就学前の子ども連れの親子や小学生、ボランティアなど約30名が参加しています。

参加されたお母さんたちは「子育てについて交流したい」「地域で異年齢の子どもとの交流をしたい」というニーズが強く、「貧困や孤食」対策よりも「子育て支援」的なこども食堂になっています。このこども食堂の実施に当たっては、二本松市社会福祉協議会や二本松市子育て支援課、NPO法人やさい畑、安達高校、安達農民連などからご支援をいただいています。助成金は、赤い羽根共同募金などからご支援をいただき、大きな赤字は出ませんでした。こども食堂ハラクッチーは、参加者が主体的に活動に参加し、こども食堂をより良い「居場所」にすることを重視しています。また子どもの食育や地域との交流を重視しており、子どもに積極的に調理に参加してもらったり、

町内会の皆さんと餅つき大会をしたりそば打ち体験などをしました。

課題としては、常時活動できるスタッフの増員や運営経費の確保、活動内容の充実などがあげられます。

こども食堂への参加人数

4/8	30名	4/29	27名	5/6	13名	5/20	22名	6/10	24名	6/24	12名
7/8	18名	7/29	12名	8/5	17名	8/19	22名	9/9	34名	9/30	28名
10/7	15名	10/21	30名	11/18	31名	11/25	31名	12/9	31名	12/16	39名
1/13	35名	1/27	22名	2/3	30名	2/24	31名	3/3	32名	3/21	22名



#### 4. 森のようちえん&がっこう

森のようちえん&がっこうは、小学校以下の子どもを対象に、森の中での体験によって豊かな情操を育むことを目的に、毎月1回実施してきました。参加者数は毎回3~8名程度で、悪天候や参加予約人数が少ない時は中止することもありました。森の動植物を調べたり、木登りや川遊びをしたり、キャンプ場で焼き芋作りをしたりしました。福島原発事故による子どもの野外活動が制限された中での保護者のニーズもある貴重な取り組みですが、宣伝の工夫や専門スタッフの増員、助成金の確保などが課題です。

6月	8名	7月	7名	8月	中止	9月	8名	10月	中止
11月	5名	12月	3名	1月	5名	2月	中止	3月	6名



#### 5. リフレッシュハイキング

リフレッシュハイキングは、原発事故による避難者を支援し、また交流の促進や健康増進などを目的として、2012年5月から毎月1回実施してきており、すでに70回を超えて参加者はのべ1200名以上となっています。2017年度は、7月に尾瀬山小屋泊ニッコウキスゲハイク(22名)、9月に山形羽黒山神社とクラゲ水族館ハイク(18名)、2月に早春の伊豆河津桜と箱根ハイク(18名)などを実施しました。7月と9月のハイキングには、赤い羽根災害ボランティア募金から助成金が支給され、参加費を軽減することができました。

課題としては、専門スタッフの増員、参加者が主体的に運営する態勢の整備、助成金の確保による参加費の軽減などがあげられます。

6/11	安達太良山レンゲツツジハイク	17名
7/22、23	尾瀬・山小屋泊ニッコウキスゲハイク	22名
8/20	銚子ヶ滝とふれあい牧場BBQハイク	21名
9/23、24	山形羽黒山神社とクラゲ水族館ハイク	18名
10/14	一切経山紅葉ハイク	27名
11/11	奥飯坂・茂庭っ湖いも煮会ハイク	15名
12/10	ハイキング忘年会	19名
1/14	信夫山初詣ハイク	21名
2/16~18	伊豆・河津桜と箱根ハイク	18名
3/18	相馬・鹿狼山といちご狩りハイク	17名



旧天城トンネル



新地町・鹿狼山の頂上



尾瀬・山小屋泊ニッコウキスゲ

## 6. ウォーキング

ウォーキングは、2013年5月から毎月1回、二本松市を中心に2～3時間実施してきました。参加者は数人から十数人でした。毎月のハイキングに参加できない人やハイキングだけでは物足りない人などのために実施してきました。毎回花々や自然を楽しんだり、神社仏閣や名所を訪ねたりしています。快い運動と会話は、身体も心もリフレッシュしてくれます。

これからも被災者だけでなく、地域のだれでもが気軽に参加できるものにしたいと考えています。

6/17 智恵子の杜 8名	7月 遠藤ヶ滝 雨天中止	8/6 あだたら溪谷 9名	9/10 安達ヶ原・彼岸花 8名	10/28 きぼっこの森 12名
11/23 霞ヶ城・紅葉 12名	12/2 スカイピア・忘年会 9名	1/6 霞ヶ城・初詣 11名	2/10 本宮・岩角寺 15名	3/10 花見山 5名



本宮市・岩角寺



二本松市・顕法寺



大玉村・大名倉山頂上

## 7. その他の事業

「青少年に対する家庭学習支援事業」は、こども食堂の中で実施する予定でしたが、参加者が就学前の子どもが多く、ニーズもなかったため実施できませんでした。

「子どもから高齢者までが安心していただける居場所作り事業」は、計画作りが十分でなく、地域のニーズを引き出すまでには至らなかったため、実施できませんでした。

「青い空ニュース」は毎月1回発行をして、会員やあだたら青い空の事業にかかわる方に配布してきました。今後は紙面をより充実するとともに、発行の協力してもらえらるスタッフを募りたいと思います。

あだたら青い空のホームページとブログは、あだたら青い空の活動を広く知らせるとともに、各事業への参加者を募るうえでも重要な宣伝手段です。これからもホームページを常に充実させていきたいと思っています。

## 8. 2017年度の助成金実績

赤い羽根共同募金一般公募	20万円	こども食堂
福島県民間団体企画提案補助金	15万円	こども食堂
公益信託うつくしま基金	29万円	こども食堂
赤い羽根共同募金・災害ボランティア	17万2千円	ハイキング2回

合計 812000円